

ろうさい ニュース

平成 29 年

5 月号

第 393 号

■開院 51 年目に向かって 院長 有井 滋樹

青葉が目にしみる爽やかな季節となりました。皆様方にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

当院はおかげさまで開院 50 周年を迎えることができました。4 月 8 日の記念事業も無事終わることができました。あらためて皆様のお力添えに御礼申し上げます。とくに京都大学 iPS 細胞研究所との合同シンポジウムでは山中伸弥先生のご講演を是非聴きたいということから 400 人の医療関係者と 600 名の一般市民の方々に会場は満員となりました。

いままで我が国でノーベル賞を受賞された方で山中先生ほど受賞後も大きな期待をかけられている研究者はおられないと思います。周囲からの大きな期待は、時には過度となり、ご本人には重圧となりかねません。世界との競争、研究費の確保、そして 500 人以上にもものぼる有期雇用者の維持などで気持ちが折れそうになることもおありと推察します。その中で、山中先生はどなたにも暖かく、誠実に応対され、そして謙虚でユーモアがあります。忙しいなどとは言われずにマラソンもされます。私ども医療者も患者さんの診療、看護に際していろいろと厳しい状況においこまれることがしばしばありますが、苦境に陥ってもこのような気持ちを持ち続けたいものです。

さて、本年度の診療体制ですが、若い医師が京都大学、浜松医科大学、東京医科歯科大学、兵庫医科大学の医局人事によりだいぶ変わりました。全員、心のこもった良質の診療に邁進する所存です。

今年は 5 年ぶりに病院機能評価を受ける年でございますので、この機会に診療、看護のさらなる改善を行なう所存です。とくに重要な目標としてはチーム医療の実践と考えています。一診療科の医師のみで診療計画を立て、各職種に指示する古典的方法では現在の高度・複雑化した医療を適切には行えません。専門分化した職種が情報を交換し意思決定を行なう事が求められます。したがって、各職種が医療レベルを高めるとともに職種間の垣根を低くし、チーム医療を実践してまいりたいと念じています。また、このろうさいニュースを通じて私どもの各職種をご紹介します。病診・病病連携をさらに高めてまいりたいと願っています。

末筆になりましたが、皆様方のさらなるご清栄を祈念申し上げます。



■ 消化器内科の紹介

浜松労災病院 消化器内科部長 大田 悠司

先生方はじめ関係者の皆様方には日頃より大変お世話になり、ありがとうございます。

地域の先生方のご支援と各診療科の連携も合わさり、消化器内科の内視鏡検査件数、入院患者数、外来患者数は継続的に増加傾向となっております。これらを継続的に行うことにより、地域社会にも認知され、信頼できる医療の提供につながると考えております。

また、本年度より常勤医師が4人となり検査数枠の拡充含め、紹介患者様の受け入れ、緊急疾患への迅速な対応、安全な検査や処置、検査や外来での患者さんの満足度向上などに必ず繋がると考えております。

当科の検査や処置には内視鏡によるものが多く、近年の機器の進歩は目覚ましいのがあります。我々は積極的に新しい知識・技術の習得や最新機器の導入を行い、患者さんの負担を抑えた安全、安心の診断と治療の提供を目指しております。

1例として、下記に超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）をご紹介します。当院では膵腫瘍の症例などに対し積極的に同検査を施行しております。適応症例などありましたら是非ご紹介いただけましたら幸いです。

私共としましては、1人でも多くの患者さんに喜んでいただける診療科として地域医療の貢献に尽くしてまいりたいと思っております。今後とも皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

EUS-FNA (Endoscopic Ultrasound-Fine Needle Aspiration)

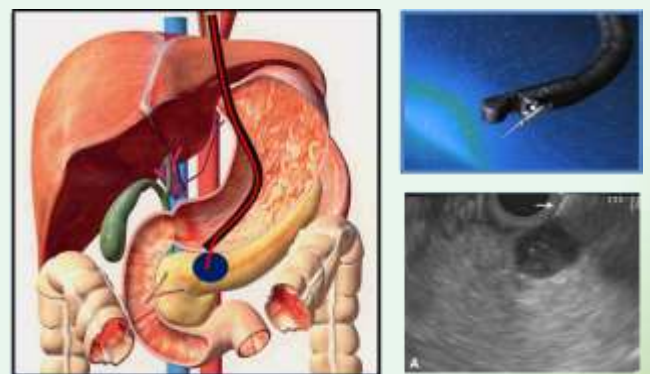
(超音波内視鏡下穿刺吸引法)

本邦では2010年4月に保険収載され、現在普及が進んでいます。

胃や十二指腸等の消化管から超音波内視鏡で腹部腫瘍（消化管粘膜下腫瘍や膵腫瘍、腹腔内腫瘍など）を観察し、消化管内から針を刺して組織を採取する方法です。超音波内視鏡

とは内視鏡に超音波検査のプローブ（探触子）がついている内視鏡です。腫瘍性病変の診断は超音波やCT、MRIなどでは困難な場合があり、そのような場合に組織を採取することができれば、より正確に診断することが可能になります。

膵癌に対する診断能を比較検討では、従来のERCP（内視鏡的逆行性膵胆管造影検査）による膵液細胞診では感度：36.4%、特異度：100%、正診率：50.0%でありましたが、EUS-FNAでは感度：92.1%、特異度：100%、正診率：93.6%と報告されており、また偶発症も1-2%（膵炎、出血、感染など）と低頻度で報告されております。



■ 婦人科の紹介

浜松労災病院 婦人科部長 小澤 英親

近隣の先生方には平素より大変お世話になり、ありがとうございます。

当科は、しばらくの常勤医不在の後、平成 23 年度から小澤英親が常勤で勤務し現在に至っております。常勤医師 1 名ですので、赴任当初から分娩や妊婦検診は取り扱っておらず、婦人科のみの診療とさせていただいております。浜松医科大学産婦人科医局から週に 2-3 回の外来応援等をしていただいで、運営しています。

常勤医 1 名につき特に緊急時の対応等に限界がありますが、引き続き向上心をもって努めてまいります。

① 外来診療時間について

月曜から金曜日の毎日 外来受付時間 8:30~11:00

午後診療（水曜日のみ） 外来受付時間 13:00~15:00

いずれも、予約・予約外問わず診療しております。また水曜日の午後は女性医師が診療を行っております。

② 診療内容について

一般的な婦人科診療を行っています。具体的には、子宮筋腫、子宮内膜症、子宮腺筋症、卵巣腫瘍、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌といった良性腫瘍や悪性腫瘍、続いて子宮脱や膀胱瘤などの骨盤臓器脱、さらに子宮周囲炎、子宮附属器炎、骨盤腹膜炎、膣炎、性行為感染症といった感染性・炎症性疾患、また月経困難症、月経異常、更年期などの機能的異常などが挙げられます。

外来でできるだけ加療しますが、入院や手術も可能な限り対応しています。また特に更年期に代表される慢性の症状には積極的に漢方薬を導入しています。

③ 入院診療

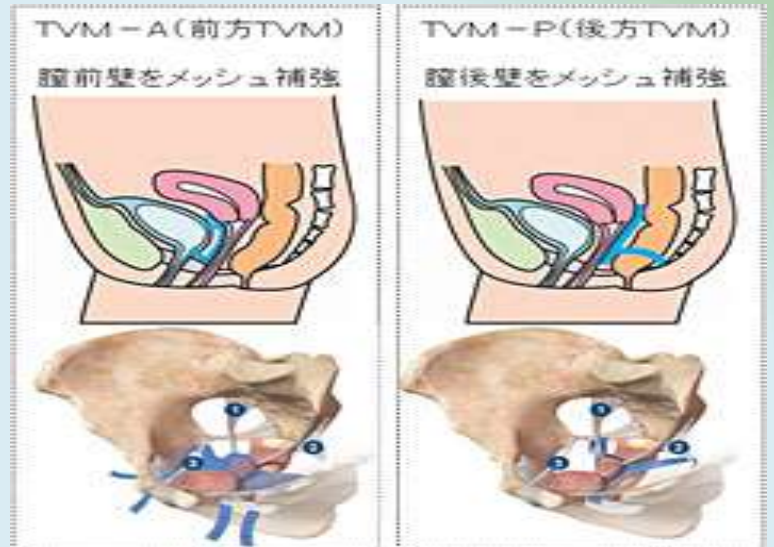
対象は主に手術の方となりますが、その他、感染性や炎症性の疾患で抗生剤などの点滴加療を要する方や、放射線治療の方なども挙げられます。

④ 手術について

対象は前記しましたところの、子宮筋腫、子宮内膜症、子宮腺筋症、卵巣腫瘍、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌といった良性腫瘍や悪性腫瘍、子宮脱や膀胱瘤などの骨盤臓器脱、また子宮内膜ポリープなどとなります。婦人科手術は開腹手術か経膣手術に分けられます。当科では開腹手術において当院外科の協力の元、腹腔鏡手術を H24 年度から導入しており、年々症例を積み重ねています。また従来手術で行わなければならない疾患も引き続き存在しますが、その手技の向上にも日々精進しております。

また子宮脱や膀胱瘤などの骨盤臓器脱、子宮内膜ポリープ等は経膈手術の対象となりますが、骨盤臓器脱に対しては従来手術の膈壁形成（膈式子宮全摘は適宜）を行い、またメッシュ手術の導入を現在検討中です。子宮頸管ポリープ（及び粘膜下筋腫）には子宮鏡下切除が、症例によっては可能となっております。

以上、簡単ではございますが、当科の紹介をさせていただきました。微力ながら、これからも地域医療に少しでも貢献していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



第26回浜松EAST医療連携セミナー開催について

平成29年6月7日（水）に浜松EAST医療連携セミナーを下記のとおり開催いたします。今回は「遠州灘からみたアレルギー」がテーマです。ご多忙中恐縮ではございますが、ご出席いただけますようお願い申し上げます。

記

日時：平成29年6月7日（水）

19:30～21:00

場所：浜松労災病院 6階 大会議室

講師：浜松医科大学皮膚科学講座 戸倉新樹 教授



独立行政法人 労働者健康安全機構

電話 053-411-0366

受付時間

浜松労災病院 地域医療連携室

fax 053-411-0315

月～金 8:15～18:00 土 8:15～12:00